

# 花咲き山

令和3年度  
飯豊町立飯豊中学校  
第2学年だより  
第36号  
2021.11.26  
文責：小松正義

## 修学旅行を終えて (1組編)

長岡和佳葉

私が三日間の修学旅行で一番楽しかったのは「鯨と海の科学館」です。科学館は、私達一組五班が皆にプレゼンして選ばれた場所です。特に本物の鯨の標本を見るのが楽しみでした。

二日目の最後、大雨で風も強い中「鯨と海の科学館」に着きました。東日本大震災の時は二階まで津波が来たそうです。中に入ると、思っていた以上に大きい鯨の模型がありました。あまりにも大きすぎて一回でカメラに収まりきれませんでした。そして、別の場所には本物の巨大鯨の骨、標本があり、ここを選んで良かったと思いました。また、マネキンが本物にしか見えなくて、その場所を通る度に何回もびっくりました。「鯨と海の科学館」は、いつか家族四人で来たいです。

※ 考えてみれば、各班ごと見学地をプレゼンして皆の投票で行き先を決めていきましたね。自分たちが選んだ場所を一番の思い出にできただけでなく、また家族で行ってみたい場所になって良かったですね。

船山 愛莉

私が修学旅行で楽しかったことは、見学地ももちろんおもしろかったけど、ホテル、バスで移動している時である。ホテルで同じ部屋の女の子とたくさん話をした。すごく盛り上がり笑いが止まらなかった。自分で持ってきたカメラで写真を撮ったり、ずっと恋バナをしたりして、一生に一度の修学旅行での良い思い出になった。バスでは、今までにないぐらいすごく笑った。あまり今まで話をしてこなかった人と仲が深まったし、男女関係なくたくさん話をし、たくさん笑った。こうやって男女関係なく話ができるのはすごいことだと改めて思ったし、私たちのクラスだったからこそできることなのだと思います。そして、こうしていられることが「幸せだな」「楽しいな」と思えた。今回の修学旅行では課題もあったけど、良い所もたくさん見つけられた。これから、様々な行事で、学年やクラス全員で協力して頑張りたいし、最高の思い出をたくさん作りたい。

※ クラスの良さを発見している作文は2組にもありました。自分のクラスを楽しい、幸せと感じられることは何よりの財産です。課題もクリアしながらこれからもたくさんの良い思い出を皆で作ってほしいと思える内容になっています。

後藤 和希

私が三日間の修学旅行の中で楽しかったことは、バスに乗って移動したことだ。修学旅行では、いろいろな見学地を訪れましたが、バスの窓から見た景色は、山形の景色と比べてみるとおもしろかったです。友だちと話をするのも楽しかった。バスでの移動が一番楽しかった。また、バスガイドさんの仕事を身近に見られたことも勉強になりました。窓の外に広がっている景色の説明は聞いていくわくわくしました。これから向かっている見学先の説明は、とても頭に入りやすく、正直、見学先のガイドさんと同じぐらいわかりやすかったです。また、説明だけでなく、見学先から帰ってきてバスに乗る時や、バスを降りる時は、いつも笑顔で声をかけていた。嬉しかった。私達が楽しくバスに乗れていたのも、バスガイドさんのおかげだと改めてわかって、バスガイドさんの仕事って素晴らしいなと思いました。

※ 今回の修学旅行は、キャリア学習のテーマもありました。現地で働く人や、修学旅行中にお世話になった人から学ぶというものです。三日間一緒に過ごしたガイドさんの働きぶりから、また、ただ楽しいだけのバスにせず、しっかりと学んでいることが素敵です。

長谷川彩人

僕が3日間の修学旅行で1番思い出に残っているのは、東日本大震災津波伝承館です。理由は3つあります。1つ目は、事実を知ることです。僕は東日本大震災の記憶がありません。なので、当時の揺れの大きさや被災した実際の物、被災現場の写真を見ることで地震の怖さを知ることができたからです。2つ目は、教訓を学ぶということです。逃げる、助ける、支えるなど、東日本大震災の時の人々の行動などを知ること、命を守るための教訓を共有できたからです。3つ目は、感謝の気持ちを大事にすることです。東日本大震災、津波の被害を乗り越えて前へ前へと進んでいる被災地の方の姿から知ることができました。

※ 実物から学ぶことは多くあります。物や写真、映像から大切なことをたくさん学んでいる彩人さんの姿が、しっかり伝わってきます。物を見て感謝の気持ちまで感じ取れるあたりが中学生、大人だなあと感心させられました。

木村 瑠里

三日間の修学旅行で一番思い出に残っていることは、一日目の夕食です。初めは普通に隣の人とお話しながら食べていましたが、食べ終わってジュースを飲みながら話していたら、くらのさんの目がぱっちり開いて、話を急にやめたので、何かしたのかと思って、目線の先を見た瞬間、指先に力が入りジュースが私の服にかかってしまい、びっくりにして、大爆笑しました。くらはさんは笑いすぎて、笑い方がぶたになって、笑いが止まりませんでした。

運動着は一枚しかないのに、一日目で終わってしまい悲しかった。その後、合唱を披露するというのにビチョビチョだったので頑張って乾かしました。笑いすぎて涙が止まりませんでした。楽しかったです。

※ どんな内容よりもハブニングが印象に残ることはよくあります。その一瞬に絞って作文を書いてくれました。瑠里さんにしか書けない思い出ですね。とても楽しい思い出です。

私は今回の修学旅行でホテルが一番思いでに残っている。ホテルでは普段経験できないことがたくさん楽しめた。ホテルでの美味しい夕食。そして夕食の後にホテルの方への感謝を少しでも伝えたいとみんなの心がこもった合唱。合唱はホテルの方に感動していただけるほどの「心の瞳」を歌うことができた。ホテルではその日の見学や体験しての感想を書いたり、1日の反省、次の日の課題などを考えたり、1日の出来事を頭の中で整理した。また、自由行動が多い分考えて行動できた。そして何より楽しかったのは、部屋でしたカードゲームや話だった。普段よりたくさん話せて、友達との絆を実感できた。

今回の修学旅行は絆を深められたのが大きかったと思う。今後につなげ、スローガンを達成したい。

※ ホテル内のいろいろな出来事に感動したことがわかります。合唱は本当に素敵でした。そして多くの仲間が、友達との部屋での触れ合いのことを書いていました。「次の日の課題を考えたり」や「今後につなげ、スローガンを達成したい。」という所に実行委員長としての自覚を感じました。到着式での奏さんの総括を思い出しながら読みました。

# 咲雪さん一家の記事を見つけました (山形新聞 11月25日)

満面の笑み！「飯豊の友達と離れるのは寂しかったけど、これからはどちらも友達」の言葉に、尾花沢でも頑張っている仲間がいることを再確認できました。

2021年(令和3年)11月25日(木曜日) 社会総合 1A1 1頁

## 尾花沢 真白いまちに描く夢

### 会田さん一家移住 スノボ愛のショップあす開店



カナダから栃木、飯豊町、そして県内屈指の豪雪地・尾花沢市へ。ニットキャップ「ビーニー」をオーダーメイド販売する会田憲文さん(46)が一家で市内の花笠高原スキー場近くに移住、使われていなかった市有施設を改装し26日にショップを開く。移住の決め手となったのは厄介者として敬遠されがちな雪。スノーボードをこよなく愛する会田さんにとって大雪のまちは求め続けた場所だった。

尾花沢市は、山形県南東部に位置する。尾花沢市は、山形県南東部に位置する。尾花沢市は、山形県南東部に位置する。

雪質、人柄、景観… ほれ込み、たどり着いた

会田さんは埼玉県出身。法政大学卒業後、大手総合住宅メーカーに就職。主に支店のある南関東で働き、休日にはスノーボードで遊ぶ。趣味が高じ、一生スノーボードで暮らしたいと、2007年にカナダに移住。北米最大級のスキーリゾート・ウィスラーのレストランでウェーター員として生計を立てた。その後、使い手の悪さを生かしたビーニー作りを始め、かなり心地や耐久性、軽んでも外れない使い易さから評判になり、翌年にはオリジナルブランドを設立し、「真白」にちなみ「LADE」と名付けた。

その後移住した栃木県内でショップを開いたが、11年の東日本大震災を機に会田さん(初)の職歴を振り返り、飯豊町へ。空き家を改装し、改装したビーニー販売も軌道に乗せたが、「雪が多すぎて子どもたちが家から歩いて行けるアレンダ」への憧れが募り、尾花沢にたどり着いた。

冬場は水分を多く摂った季節は日本各地から観光客が訪れる。川水を通って流れ込み、尾花沢山脈にたどり着いて尾花沢市を潤す。平場近くにあるアレンダは標高約400〜600メートル、雪質は多い時で2メートル、雪質は多い時でも雪質は遜色ない(会田さん)という。市の全面積を誇る尾花沢市は、市内の各所にスキー場があり、市内の各所にスキー場があり、市内の各所にスキー場がある。

LADEは、12月10日の各日正午からアレンダに開店し、12月10日のスキー場開きに合わせて本格営業する。水・木曜定休。スノーボードやウェアなども販売する。問い合わせは会田さん012-377-6133(0900)。(木村智恵)